

# 佐賀市 51 歴史探訪

## ほり え じん じゃ ふりゆう げん ば いち りゆう 堀江神社の浮立玄蕃一流

堀江神社は、熊襲征伐のため肥前にきた日本武尊の威徳をしのいで土地の人が祠を建て堀江大明神と称えたことが起源といわれています。

弘安4(1281)年の元寇(弘安の役)の時、後宇多天皇が一州一宮社の神を勧請して祈願した際に木彫りの神像が奉納されたと伝えられる古い神社です。歴代の龍造寺氏、鍋島氏から厚く崇敬されていました。

堀江神社の浮立は、「玄蕃一流」と呼ばれ、毎年11月3日の例祭(供日)に氏子である草場、東神野、西神野の3地区によって奉納する習わしになっています。

「玄蕃一流」は、頭に大きな冠状の輪をつける天竺舞浮立で、天竺舞、大太鼓打ち、小太鼓(もらし)、鉦、笛、調子方、謡方、宰領、世話人、供人が参加します。天竺舞は日月にかたどった雲龍を画いた直径1メートルくらいの紙張の前立を額に当てた、農民の姿ながら武装を思わせる装束で、撥を両手に大太鼓を打ちながら謡に合わせて舞い踊ります。

この天竺舞は、弘治2(1556)年5月に未曾有の旱魃を憂えた大宮司の山本玄蕃が、堀江大明神に雨乞い祈願のため舞ったことで、自然に「玄蕃一流」というようになったと伝えられています。

天竺舞浮立は、佐賀市とその周辺でも行われていてその種類も多いのですが、堀江神社につながるものだけが「玄蕃一流」と呼ばれています。

この「浮立玄蕃一流」は伝統行事としての重要性から、昭和43年に佐賀市重要無形民俗文化財として指定されました。

### 一口メモ

後宇多天皇が戦勝祈願のために奉納されたと伝えられる木彫りの神像67体は、今も堀江神社に納められ、昭和43年に佐賀市重要有形民俗文化財「堀江神社神像群」として指定されています。



▲佐賀市重要無形民俗文化財「浮立玄蕃一流」



▲佐賀市重要有形民俗文化財「堀江神社神像群」

